

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（初回）

所属	外国語学部	英語英文	学科 専攻
派遣先大学 (国)	ビリニユス大学 (リトアニア)		
所属プログラム・ 学部・研究科	Exchange Programme, Faculty of Philology		
報告書提出日	2019年2月23日		
留学予定期間	2019年1月～2019年6月		

1. 渡航について

1.1. 出発前の準備

出願料・宿舍デポジット： (通貨入力) /合計

航空券代： 181,950 (円) /合計

ビザ申請関連費： (通貨入力) /合計

その他 (): (通貨入力) /合計

ビザ取得の際に残高証明書は必要でしたか？ はい いいえ

「はい」の場合、いくらの残高証明書を作成しましたか？ 200,000 (円) /合計

準備

11月頭ごろ受け入れ申請をし、11月末受け入れ許可証が届く。

航空券の確保、保険の申し込みを行い、その他書類を作成。その後リトアニア大使館のホームページ内のフォームに記入し印刷、メールでアポイントメントをとる。この時点で12月末。

1月2日、大使館にて書類提出及び面接。(提出書類:パスポート、英文保険証券、本学内英文成績証明、証明写真、英文残高証明、受け入れ許可証、eチケット控え、大使館HP内フォームのコピー)

その後二週間ほどでパスポート及びビザが届く。

困ったこと、留意点

留学先に受け入れ申請をした11月は中間試験と重なり、また留学先は新学期が早く始まるため渡航直前まで本学では試験となってしまう。授業との兼ね合いは特に注意すべきと感じた。

大使館とのやり取りは基本全て英語であるため、特にビザ申請の面接の際は面食らった。

大使館へのアポイントメントのメールは送ったタイミングによっては反応してもらえないので、何度か送る必要も出てくる。

1.2. 渡航について

フライトは成田発ヘルシンキ経由ヴィリニユス行き。

出発予定日1月27日、電源システムのトラブルにより数時間待機の未欠航。航空会社側の手配で翌日同時刻の同じフライトでヴィリニユスへ向かう。ヘルシンキ到着時点で10分～20分程度の遅延。さらにヴ

イリニユス行きのフライトも遅延、ヴィリニユス空港には予定から3時間以上遅れた午後9時半過ぎとなった。留学先のメンターがタクシーを呼んで待っていてくれたため寮には10時過ぎには寮に到着することができた。

2. 到着後の手続きについて

2.1. 寮・ホームステイ等への入居手続き

手続き

寮に到着した段階で夜遅かったため、守衛の方から諸注意を受け鍵を受け取る。手続きは後日とのことだった。

新学期が始まると寮の管理人の方は忙しくなってしまうし手続きをする機会がなく、手続きを行ったのはこの報告書を提出する直前2月20日となってしまった。署名し、デポジットと2月分の家賃合わせて118ユーロ(デポジット60+月の家賃58)の請求書を渡される。リトアニア国内大手チェーンのスーパーマーケット「Maxima」にて支払う(カード又は現金)。

今後は月々58ユーロの支払い。

気付き

トイレとシャワーのユニットバスは2部屋に1つ、キッチン1フロアに2つ、1階にはトレーニング室、自習室と思しき部屋がそれぞれ1つずつ、地下にはコインランドリー(乾燥機)があり、談話室のようなものは無い。

入り口には必ず守衛の方がいるので、セキュリティは問題ない。

1人部屋と2人部屋と3人部屋があり、自分はインド人のルームメイトと3人部屋を2人で使用している。

2.2. 滞在許可・外国人登録の手続き

上に挙げた入寮手続き、次に挙げる名簿登録の他に申請・登録は特になし。

2.3. オリエンテーション・学生登録・プレイスメントテスト等の学内手続き

1月31日より1週間 Orientation Week として登録、図書館ツアー、履修相談、市内ツアーなどが行われた。

1/31 名簿登録、その後オリエンテーション(今後の動きなど一通りの情報が載った冊子の配布、緊急時の対応、リトアニアの歴史など)

その後、各自自宅等でインターネット上の登録を行う

2/6—15 履修登録期間(初回又は2回目の授業に参加、それぞれの授業の担当教授から登録用紙内にサインをもらい事務所に提出)

2/8 ウェルカムパーティー(コンサートホールのような場所を貸し切りで開催された。主催は生徒会に近い学生団体で、会場には学生と店員しかいなかった。)

2/6 授業開始

3. 目標について

3.1. 留学の目的、達成目標

将来的に英語教師として胸を張れるレベルまで英語力を引き上げること(帰国後には TOEIC では 800 点を越すことを目標とする)。また、自分の基礎研究とも精通する歴史についての授業、研究書などを通じてリトアニア視点の歴史観を知り、今後の研究材料とする。その傍ら実生活や Lithuanian Language の授業を通じここでしか触れられないリトアニアの文化、語学にも親しむ。

3.2. これまでの学習・研修目標および達成度について

渡航の前日まで教養系の試験が続き、語学に関する準備は不十分だった。特にセミナー形式の授業が多いため、四技能の単純な力不足をひしひしと感じる。語学力向上にこれまで以上に本腰を入れて取り組み、少しでも早く恥ずかしくない英語力を身に付けたい。しかし、知識の面で吸収するものが多いことも感じている。今後も地道に授業に取り組み、更なる知識、技能の獲得を目指したい。

3.3. 今月の学習・研修目標

まず急がなければいけないのは英語力の底上げである。授業の予習・復習、ルームメイトとのコミュニケーションなどで徹底的に英語に触れる機会を増やすこと。疑問点は授業後でも教授に積極的に質問をし、あやふやなままにしないことを心がける。ディスカッションでも発言の機会を増やす。

4. 学修について

4.1. 授業時間割

現在の学期	前学期
月	
火	Lithuanian Language(11:00-12:30),Information War between the USSR and the West(13:00-1500)
水	Lithuanian Language(15:00-16:30)
木	USA Studies(09:45-11:15),The Novel of Ideas:Utopia and Dystopia(13:00-14:30)
金	Lithuanian Language(13:00-14:30)
土	
日	

4.2. 授業について

当初出願した科目が上限人数、時間帯の関係で2つも受けられないという事態になってしまった。Lithuanian Language は週 3 回の授業であるため、かくして半分がリトアニア語の授業という時間割となった。

① Lithuanian Language(90 分/1 コマ)(3 コマ/週)

リトアニア語を英語で学ぶ授業。使用する文字から単語、文法、日常会話、そして時にはリトアニアの文化や直近のヴィリニクスでのイベントなどについても解説がある。新出事項の説明、練習問題の流れである。様々な国籍の学生が出席しているが、先生がフレンドリーで質問もしやすく授業の雰囲気もいい。覚えることが多く、宿題も毎回まとまった量出るが、厳しいということはない。現時点では一番自

信を持ってついていけている、と言える授業である。

評価方法は出席と中間テスト、期末テスト。持ち込みは当然なしと思われる。

予備知識は必要ないが、努力が必要とされる科目である。

②Information War between the USSR and the West(120 分/1 コマ)(1 コマ/週)

名前の通り冷戦期の情報戦についての授業。授業の冒頭で先生がその日のテーマを示し、それについての講義をディスカッションを多く絡めた形で進行する。当然のごとく世界史の知識が必要となるが、自分としては世界史は得意科目だったため知識の面で困ることは今のところない。ディスカッションが多いためリスニング、スピーキング力が必要とされる。他の学生が言ったことが聞き取れないことが多々あり多少ついていくのに厳しい部分がある。

評価方法は授業の参加度(主にディスカッション)、中間のプレゼンテーション、期末エッセイ。

現代史についての基礎知識が必要、そしてディスカッションの経験も必要である。

③USA Studies(90 分/1 コマ)(1 コマ/週)

アメリカ合衆国についての授業であるが、主にその中でも外交方針についてを取り扱う。かなりレベルが上の学生向けのようで、基礎知識においても語学力においても高い水準を求められていると感じる。授業のはじめには最近のアメリカに関するニュースについてディスカッションを行い、その後先生が用意した資料(大統領の演説原文や新聞記事など)を 10 分ほどで読み込んでディスカッションするというまさにセミナー形式の授業である。ディスカッション内の学生の発話内容も先生の話の内容も聞き取るのが困難である。上記の理由から自分としては積極的に授業中の質問はしづらく感じている。学生の比率は、東洋人が少ないところを見るとあまり交換留学生向けではないように感じる。ネット上で推薦図書やシラバスその他授業サポートがなされている。

評価方法は、授業への参加度、中間エッセイ及びそのプレゼンテーション、そして推薦図書を読んで内容について一対一で先生とディスカッションをするという book talk の3つである。

上記の通り高水準の英語力、また日頃から国際分野のニュースに耳を傾ける必要がある。

④The Novel of Ideas:Utopia and Dystopia(90 分/1 コマ)(1 コマ/1 週)

英語圏文学についての授業であるが、名前にあるようにユートピアとディストピアという2つの概念に着眼点を置き知識、考察を深める授業である。リトアニア語の授業を除く他の授業より講義の比率が高く、要点をまとめたスライドも表示されるため授業自体はついていけるものの、授業外で読む分量がとてつもなく、これからさらに課題や予習に追われることが予想される。この科目もネット上のサポートが充実しており、推薦図書を自分で購入したりする必要がない。周りの学生の緊張感もひしひしと伝わってくるためこの授業も質問はいささかしづらい部分がある。

評価の方法は読書課題の要約、また別の読書リストから選んだ本に基づいたプレゼンテーション、そしてさらに別の読書リストから選んだ本の内容についての試験、この3つである。

英語圏文学についても多少の基礎知識はあった方が内容を頭に入れやすい。

4.3. 予習・復習・自習について

- ①の自己学習は宿題と復習に徹している。進みの速さで自分の理解が追いつかなくなってきたため、さらに多くの復習の時間を作る必要を感じている。
- ②については録音の聞き直し、特に聞き取りに困難を感じているディスカッション部分を集中して聞き直すようにしている。また、取ったノートの見直しもしている。
- ③授業内で配られる資料は今の英語力ではどう頑張っても10分では理解できないので復習としてゆっくり時間をかけて読み直すようにしている。授業サポートのサイトにもアクセスしたいが、初回の授業で聞き逃してしまったため先生に現在問い合わせている。
- ④この授業で録音の許可を取ろうとしたらNGと言われてしまったので、授業サポートのサイトとノートを用いて復習している。また、課題図書も随時読みはじめている。

英語力については単語力が心もとないことも復習の過程で強く感じたため、授業内で出会った単語でわからないものは1つ残らず別途用意したノートにまとめ、片っ端から覚えていくことにしている。また、ヴィリニウスで行われた book fair というイベントで、英語で書かれた自分の好みに合う本をいくつか入手することができたのでそれらも自主的に読み進めてリーディング力もつけていきたい。このように、リトアニア語は置いていかれない程度に、当面は英語力を上げることに集中していく。

5. 生活について

5.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
----	------------

到着した次の日、測ってはいないがこれまであまり経験したことがないほどの熱を出した。筋肉痛もひどく、階段を登りおりするのも辛かった。持病の疲れからくる蕁麻疹も出てしまった。それから2日ほど経つと熱は上がったが今度は硬水の飲み過ぎからきてると考えられる腹痛及び下痢があり、寮に到着してから授業が始まるまでは8割型寝て過ごしていた。体調はその後自然と改善されていったが日本にいる頃からお腹は下しやすいため、今でもたまに下す。

こちらに来てからすぐ寝付けないことが多くなった。夜更かしは自分の悪いくせなので早く寝る習慣をつけたい。

5.2. 課外活動について

神奈川大学内でも軽音楽部に所属していたためギターを購入した。バンドサークルのようなものがあれば当初は参加したいと思っていたが、全く噂を聞かないということと外の外忙しいのでやめておこうかと思っている。

休日や自由時間は市内散策やレストランで食事をするなどしているが、授業も本格化してきたためそういった時間は少しずつ短くなってきている。

5.3. 現在までの感想

滞在が始まって一ヶ月もたっていないが、すでに学びについては大きな実感が湧いてきている。神奈川大学における学びと精通する気づきや新たな知識が多く、ひとつひとつの授業に対して満足感がある。

ここにきて自分の英語力にこれまで以上に不安感を抱いたこともあり帰国後に控える教育実習が大きい。

な不安要素の1つ。また英語力の不足から授業に思うように参加できない焦りも感じる。

帰国後の履修計画もかなり詰め詰めであるため、神奈川大学での履修計画から精神的に解放されたこの滞在が社会に出る前の最後の自由時間のような気がしている。目の前の課題に取り組むことが不安や悩みの1番の解決策であると感じているので、前向きに学業に励みつつ適度に肩の力を抜いてのびのびと過ごしていきたい。

以上

神奈川県派遣交換留学生 近況報告書 (4月)

所属	外国語学部	英語英文	学科 専攻
派遣先大学 (国)	ビリニュス大学 (リトアニア)		
所属プログラム・ 学部・研究科	Faculty of Philology		
報告書提出日	2019年 4月 12日		

1. 目標について

1.1. 留学の目的、達成目標

特に前回の報告書に記載した内容から変化はない。TOEIC800点越えを目標に語学力の向上、歴史系、言語学系の授業を履修し帰国後の本学内の学習、研究の一助とすること、リトアニアの言語、文化に親しむことである。

1.2. 先月の学習・研修目標および達成度について

後述するが、英語力についてもリトアニア語の能力においても向上を感じることができた。しかし留学期間も中盤に差し掛かっている中、まだまだ語学についても授業への取り組みについても今後さらに自分に厳しくやっていく必要を感じる。

1.3. 今月の学習・研修目標

上記の内容を踏まえて更なる積極的な授業への取り組みがまず第一に挙げられる。また今月は中旬にイースター休暇を控えており、旅行も計画している。煮詰まってきた留学生活のリフレッシュや、生きる力や行動力を試す機会としたい。

2. 学修について

2.1. 授業について

Lithuanian Language

文法の複雑化、語彙の多様化に若干取り残されてしまっている感が否めない。三月にあった中間試験においてもあまり結果が振るわなかったため復習にさらに重点的に取り組みたい。ただ、わからないなりに発話だけでも積極的に取り組んでいるため、一ヶ月前より確実な進歩を感じる。

Information War between the USSR and the West

学生主体のプレゼンテーションによる授業進行へとシフトしてきた。自分のプレゼンはまだ一ヶ月ほど先であるが、余裕を持って取り組みたい。また、ディスカッションにも少しずつ参加しているが、さら

に積極的にやっていきたい。

USA Studies

無事ネット上の教材にもアクセスすることができ、またそれを先生に問い合わせる中でコミュニケーションも丁寧にとったため、より参加しやすくなっている。小プレゼンもひとまず乗り越えたため、この先は小エッセイ執筆に向け、予習の上授業内ディスカッションにさらに主体的に参加し知識を蓄えていきたい。

The Novel of Ideas:Utopia and Dystopia

前回記載した通り、リーディング課題の量の多さに厳しさを感じている。しかし能力が足りないなりに努力して授業に臨むと確かに得るものが多く、やりがいを感じている。遅れがちな分を休暇で取り戻したい。

2.2. 予習・復習・自習について

リトアニア語については宿題をこなすのも一苦労なレベルになってきたため予・復習の時間をなかなかとれないでいるが、それでも時間があるときは文法項目と語彙の復習をするようにしている。

残りの三科目についてはリーディング課題などの予習で手一杯となっている。こちらも休日を有効活用し適宜ノート、録音などを用いて復習していきたい。

2.3. 語学力について

生活、授業にだいぶ慣れてきたことや、上記の自習、授業、日常会話などで英語力については着実な向上を感じることができている。ただ実生活で英語を身につけるとなると文法力の欠如が不安要素である。まずは発話時にこれまで以上に意識して正しい文法を心がけたい。授業内のディスカッションには少しずつ参加するようにしている中で、発言は度胸でするものだという認識になってきた。何より自ら発言する機会を設けないことにはアカデミックな場での話す力はつかないように感じる。今後も意識して続けていきたい。

リトアニア語についてもわからないことは山積みであるが、わからないなりに発話を積極的に心がけるようにして以降、少しずつ発話を始めとした各能力が伸びていることを感じる。今後もこの姿勢を通しつつ、時間を見つけて復習に取り組み疑問点を解消していきたい。

3. 生活について

3.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
----	------------

授業が本格化するにつれルームメイトであるインド人は部屋での勉強時間が増え、それにより自分の行動が制限されるようになった。不満は素直に伝え話し合いで解決を試みたがうまくいかなかったため、寮の管理人と話し合った末部屋の移動をした(413 から 311)。

新しく移った先ではのびのびとできているが、ルームメイトの寝息が大きいと寝付きがさらに悪くなっている。問題を抱えてはいるが留学生活も折り返し地点であるため今の部屋で我慢してやっていくことにした。

3.2. 課外活動について

気分転換として音楽鑑賞をしたりギターを弾いたり、前回からあまり変わらない。
また、これまで様子を見ていたため少なかった旅行を多くこの先計画している。そこでも新たな発見を
できたらと思っている。

3.3. 現在までの感想

環境の変化によるストレスなどは予想していたほどなく、うまく折り合いをつけて休むときは休みやる
ときはやるというようにしているため、睡眠を除けば休息がとれないということもない。語学に関して
はまだまだだと感じているため今後さらに努力を重ねていこうと思う。

以上

神奈川県立大学派遣交換留学修了報告書

所 属	外国語学部	学 科	英語英文学科	3	年次
派遣先大学 (国)	ビリニユス大学 (リトアニア)				
所属プログラム・ 学部・研究科	Faculty of Philology	履修言語	英語		
留学期間	2019年1月～2019年6月				
報告書提出日	2019年7月26日				

1. 学修について

1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
Spring Semester	2月6日 ～5月31日 (15週)	6月1日 ～6月31日	学部に関係なく、本科の授業の中から受講する科目を選ぶ形になる。最初の週にそれぞれの科目の講師からサインをもらい、International Relation Office に提出。

1.2. 履修科目・内容

学期	履修科目名	合計時間	履修内容・授業での取り組み
		(内訳)	
Spring Semester	Lithuanian LanguageI/III	54 時間	リトアニア語を英語で取り扱う授業である。単語、文法及び四技能を総合的に伸ばした。毎週ライティングの課題があり、他にも宿題が出た。中間・期末試験があり、文法事項及び単語の復習をしてから臨んだ。
		1.5(時間/回) × 3(回/週) × 12(週)	
Spring Semester	Information War between the USSR and the West	22.5 時間	学期の前半は講義形式、後半は学生によるプレゼンテーションの形式であった。先生の決めたお題に沿ったプレゼンテーションを披露。また、エッセイを作成し提出。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 15(週)	

Spring Semester	USA Studies	21 時間	学期の前半はディスカッションを交えた講義形式、後半は学生によるプレゼンテーション及びそのディスカッション。 Op-Ed エッセイを作成し提出、また指定図書を購入し学期末には先生と一対一でその図書に関する質問に答える Book Talk があった。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 15(週)	
Spring Semester	Novel of Ideas: Utopia and Dystopia	32 時間	この科目もまた学期の前半は講義形式、後半はディスカッション、及び学生によるプレゼンテーション。また、エッセイを作成し提出。他の科目に比べ論文や小説の多読が求められ、敷居が高いように感じた。
		2(時間/回) × 1(回/週) × 16(週)	

1.3. 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について

リトアニア語は宿題が多く、進むペースも早かったため特に力を入れていた。他の授業に関しては、とにかく事前課題についてはしっかりと目を通すようにしていた。また、授業中であっても新出の専門用語は調べるようにしていた。こうすることで講義の輪郭がつかみやすくなっていた。

1.4. 語学力について

読む量が多かったため、読解力は増したとを感じる。発言できる機会はなるべく発言するようにした結果、少ない語彙でも意思や意見を伝達する力がついたとも感じる。

2. 留学の成果を振り返って

2.1. 学修の成果

USA Studies の授業では現代のアメリカ社会についても講義があったので、英語英文学科内のゼミでも役立つ知識を多く獲得できたように思う。リトアニア語以外の授業は社会系の科目のため、他の国の学生の意見を聴く機会も多くあり、非常に参考になった。リトアニア語の授業では、語学だけでなく文化、社会、習慣などについても教えてもらう機会があり、様々な側面からリトアニアという国を知ることができた。

2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス

自分が特に後悔していることは、語学力増強を目的とした英語の授業を取らなかったことである。もっと英語力があればもっと多くの知識を吸収できたように思う。また、履修登録について、一週目は沢山の授業に試して出てみて、それから選ぶという形をとることを勧める。自分は結果的にかなり少ない授業数になってしまったので、これについてももったいないことをしてしまったと後悔している。

2.3. 留学生活で得られたもの

一つ挙げるなら、逆境でも自分を曲げない強さである。ルームメイトとのいざこざやその他トラブルに見舞われることが多かったが、その中でもやるべきことはやる、楽しむときは楽しむ、ということは貫くことができたと自負している。

また、この留学が自分にとって初めての一人暮らしの経験だったため、一人で生き抜く力もついたと感じる。

2.4. 留学生活での反省点ならびに留学志望者へ生活面のアドバイス

とにかく、寮は一人部屋を希望すべき。キッチンが共同のため、ルームメートを抜きにしても寮の人間とコミュニケーションをとる機会が多い。それ以上にこの留学で足りなかったものは一人の時間だった。

派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2019年7月13日

所 属	外国語学部 () 研究科	英語英文学科・専攻	3 年次
派遣先大学	ビリニュス大学		6 ヶ月間

I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input checked="" type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
2	住居形態の詳細を教えてください。	(3 人部屋(ルームメイトはガーナ人とリベリア人))
3	入居時手続き	(セキュリティの人から鍵を受け取り、後日署名、デポジットと初月の寮費の支払い)
4	費用(月額)	58(ユーロ)(食費含まない/月)
5	支払方法	スーパーにて
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input type="checkbox"/> トイレ(個別) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(共同) <input type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input type="checkbox"/> 冷暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input checked="" type="checkbox"/> 乾燥機 <input type="checkbox"/> その他 ()
7	住居選択方法	<input type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ()
8	周囲環境	(バス停からすぐ、徒歩数分で大きめのスーパーあり)
9	アクセス	(大学からバスと歩きで 20 分ほど)
10	留学中の住居に関して アドバイス	(一人部屋を希望すべき)
11	引越された方は引越 し先の住居形態を記入 ください。	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
12	詳細を教えてください	()

II. 通信環境について

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	現地で SIM カードを購入

3	現地携帯電話の取得手続きの方法	(現地大学のオリエンテーションで SIM が配られた)
4	自宅のインターネット接続環境	無線 (大学または寮への LAN 接続)
5	大学内インターネット接続環境	無線 (大学または寮への LAN 接続)

III. 留学費用について

諸経費 (1ヶ月の平均)		
1	宿舍費	58 (ユーロ) /月
2	食費	200 (ユーロ) /月
3	交通費	10 (ユーロ) /月
4	通信費	10 (ユーロ) /月
5	娯楽費	100 (ユーロ) /月
6	図書費	30 (ユーロ) /合計
7	学用品 (教科書など)	20 (ユーロ) /合計
8	被服費	50 (ユーロ) /合計
9	医療費	() /合計
10	雑費・その他	() /合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳 (留学準備期間含む)		
11	出願料・宿舍デポジット	60 (ユーロ) /合計
12	ビザ申請関連費	2000 (円) /合計
13	航空券代 (休暇時旅行費用は除く)	18500 (円) /往復
14	その他	(通貨入力) /合計
15	留学全日程に要した総額 (概算)	500000 (円) /合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金 (渡航時 : 80000 円) <input checked="" type="checkbox"/> 国際キャッシュカード (銀行名 :) <input type="checkbox"/> 海外送金 <input type="checkbox"/> その他 ()	
19	お金に関するアドバイス	いくら使ったか逐一確認できるクレジットカードをメインで使った方が便利

IV. 保険・医療について

1	海外旅行 (留学) 保険の種類	B19 (5 か月分で 49660 円)
---	-----------------	-------------------------

2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	いいえ
3	日本から持参した方が良かったなと思う薬などがありますか？理由はなんですか？	ストッパ、葛根湯

V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの
	筆記具、ノートPC、衣類、風呂用品、地球の歩き方、スマートフォン、イヤホン、WALKMAN
2	現地で購入したもの
	厚手のコート、夏用の衣類、調理器具、ノート、洗剤
3	(自分は持っていかなかったが) 日本から持っていったら便利だと思ったもの

VI. 留学先で困ったこと

スーパーでは英語が通じないことがあった

VII. その他、後続の学生へのアドバイス

冬は思ってるより寒く、夏は思ってるより暑いです。色々な気候に対応できるように考えた方がいいです